

令和元年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

教育目標 (生徒像) 志高 創造 自立	幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成	学校 経営方針	「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ	めざす 学校像	規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校
	柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 心身ともに健康で、正義感あふれるたくましい人間の育成		「学び続ける」人づくり 知徳体を磨き、柔軟かつ的確に課題解決できる力を育む 「地域とつながる」人づくり ふるさとを愛し、地域の未来をきりひらく意欲と心を育む		基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校 特別活動を充実させるとともに、心身の健康と安全を図る学校 地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 積極的な情報発信を行うとともに、有益な情報の共有を図る学校

重点目標		具体的方策と指導基準	自己評価		達成度・評価: A達成 B概ね達成 Cやや不十分 D不十分		
			目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度 (前年)	次年度に向けた方策 (前年)	学校関係者評価 (評価)	
1 いのちの教育の推進と規範意識・主権者の自覚を醸成	① 互いのいのちを尊重する ア 全ての生徒に自己有用感と自尊感情を醸成させる イ 自分との違いを認め相手を理解する寛さを身に付けさせる	生徒に寄り添う丁寧で的確な面談を実施できたか	○生徒・保護者の相談に、迅速に対応し、有効な支援を行うことができた。 ○学年・部・学科の関係分掌間での情報共有と連携が有効に機能した。	B (B)	○スクールカウンセラーの助言を受けながら、相談体制のさらなる充実を図る。 ○GWTと生徒理解の職員研修を継続する。 ○生徒に関する情報共有体制をより一層の充実させる。	A (A)	
		年2回(6月・12月)のいじめ・体罰発見調査アンケート実施に伴う確実な生徒ケアができたか	○アンケートの結果に対して、個人面談を迅速に行うなど、生徒指導部・保健部・学年・学科が連携し、生徒のケアを的確に行うことができた。	B (B)	○各分掌と連携して、問題行動の未然防止と指導を行い、問題行動ゼロを目指して取り組む。○授業や部活動等で、安全教育をより一層推進する。	B (B)	
		② 基本的な生活習慣を身に付け、社会の一員として自覚を深める ア メディアを活用し個性の伸長をはかる イ 情報モラルやコミュニケーション能力の向上をはかる	法令遵守への対応が徹底できたか SNSの適正な利用の指導ができたか コミュニケーション能力向上のための取組を実施できたか	○全職員による毎月の身だしなみ向上チェックは、生徒の意識向上と、基本的な生活習慣の定着に効果があった。 ○各学科の美音において、服装点検や安全指導を適切に行い、大きな事故や怪我がなく、未然防止ができた。 ○SNSに関連する問題があり、継続して指導が必要である。 ○校内での携帯電話の利用率は全大域に向上した。 ○グループワークトレーニング(GWT)による自己理解・他者理解や学年集会での主任講話は、クラスや学年の集団づくりに効果があった。 ○産業視察や外部講師招聘の意見交換会など、地域と企業と積極的に関わり、コミュニケーション能力向上に努めた。	B (B)	○各分掌と連携して、問題行動の未然防止と指導を行い、問題行動ゼロを目指して取り組む。○授業や部活動等で、安全教育をより一層推進する。 ○新聞等も活用できるより工夫していきたい。	B (B)
2 主権者意識を高める ア メディアを活用し社会情勢への関心を高める イ 考えを主張し説得できる力を身につけさせる	1 学級1新聞を活用し社会情勢に関心を持たせること ができたか 積極的に自己表現できるスキルを身につけさせること ができたか	1 学級1新聞を活用し社会情勢に関心を持たせること ができたか	○毎日の朝学習のうち週1回、農工に関する記事を読ませることで、社会への関心や進路への意識を高めることができた。	B (B)	○1学級1新聞は継続的に実施していく。○新聞記事を題材にした授業展開や教材開発を行う。 ○日頃の授業や行事などで積極的に発表の機会を設けていく。 ○図書選定や希望図書調査を継続し、校内外のコンクールへの応募により、読書意欲を向上させる。	B (B)	
		2 確かな学力、豊かな心、健康な体の育成	① 学力の充実・定着と体力の向上をはかる ア わかるまで取り組む粘り強さと家庭学習の定着をはかる イ 健康で健全な身体づくりを推進する	○基礎力診断テストの結果を分析し、学年と共通認識を持って、朝学習用テキストの確認チェックテストを行ったが、基礎学力の向上にはつながらなかった。 ○定期テストでは、赤点保有者数と赤点総数ともに大幅に減少した。	C (C)	○新学習の履修し方や教科横断的な学習についての検討を行う。 ○検定や資格取得に対する意識の向上を図る。 ○教科・学科・学年が生徒の状況と指導方法に関する情報を共有する。 ○家庭学習を取り組ませる方を検討する。 ○学力はある方が良いが誰とでも対行動し、自立を自ざしほしい。 ○学力の面では、やはり未達成のところがみられる。一人一人が早くから目標を持って頑張っていきたいと思う。また、今年度、優秀な成績を収めた生徒に、なぜ頑張れたかを聞きとりながら、下級生に対して話していくとおもしろいと思う。	B (B)
		② キャリア教育の充実をはかる ア 科目にまたがる系統的かつ体系的な進路指導を実施する イ 学習のつまずきを放置しない授業づくりを展開する	低学年からの進路相談が充実しているか 学習会、進路指導での組織的対応ができたか 企業訪問及びハローワーク等との連携強化ができたか 課題解決型学習の充実や発展がなされたか 資格取得の推進ができたか	○生徒・保護者と時宜に合わせて面談を行い、進路や学校生活に対する不安を取り除いた。 ○産業基礎での職業レディテストやライブラリ開発、外部講師による意見交換会や現場見学を通して、自己理解を深め職業観を醸成した。 ○多数のジュニアマスタースター取得者を出した。 ○進路指導年間計画に基づき、進路指導部・学年・学科が連携して進路指導を行うことができた。 ○学習支援の先生方の協力により、基礎学力の補完を行うことができた。 ○進路交際対策は、学科による組織的な対応ができた。 ○生徒の就職希望企業やインターンシップ協力企業との連携強化が図られた。 ○ハローワーク主催の就職ガイダンスや進路会議に参加し、有益な情報を獲得できた。 ○2学年の総合実習で基礎をつくることができた。 ○各学年で課題解決学習を行い、成果をまとめ発表する機会を設けた。 ○課題研究で、3年間の学びの成果をまとめることができた。 ○本校の各種資格取得の状況を提供できた。 ○電気工事士・技能検定の合格者が増えた。 ○情報処理検定の合格者が低下した。 ○学科関連資格に学科全体がチャレンジした。	B (B)	○進路希望調査等を踏まえ、面談を充実していく。 ○産業基礎を中心に計画的にキャリア教育を行う。 ○資格取得に向けた意識・意欲の向上を図る。 ○生徒への早期の進路への意識付け ○企業訪問やハローワークとの連携強化を今後継続する。 ○企業の情報収集を積極的に行う。 ○課題解決学習の段階的な取り組みを継続していく。 ○資格取得指導を計画的に実施するとともに、生徒の意識高揚を図り、合格率のアップを図る。	B (A)
3 能動的な学習(書く・話す・発表する等)の推進をはかる ア 個々の生徒を伸ばす教科指導と特別活動の充実をはかる イ 異なる考えも傾聴し協働して課題解決できる力を身に付けさせる	各情報理解と活用ができたか 授業や読書、対話等で得た知を活用したアクティブラーニングの実践ができたか	各情報理解と活用ができたか	○課題研究や調べ学習にタブレットを活用し、深い学びにつなげることができた。 ○生徒が図書室の選定や本のポスター作りを行い、読書推進に力を入れた。 ○インターンシップや進路の報告会、課題研究発表会を通して、まとめ方や発表の仕方、プレゼン力を養い、また発表・プレゼンを理解する力がついた。	B (B)	○授業やHRで活用できる視聴覚教材の充実を図り、図書室の利用環境向上を目指していく。 ○課題研究の内容をまとめて発表する。 ○新学習指導要領に準拠した授業を展開する。 ○新学習指導要領の実施に向け、生徒の深い学びにつながる更なる授業改善とそのための授業研究を行う。	B (B)	
		④ 個に応じた支援体制の充実をはかる ア 継続した教育相談を行う イ 支援が必要な生徒の情報は関係者間で確実に共有する	定期的な校内での情報共有と研修が実施できたか 関係機関との連携による実効的な取組を推進したか 学年・学科・生徒部・ABC委員会等、縦横での細やかかつ速やかな情報共有ができたか	○OK-13法の職員研修会を行い、学級経営の方法について学んだ。 ○学年会や教科担当者会、ABC委員会、情報共有が図られ、個に応じた支援を行うことができた。 ○各学科で定期的な科会を行い、情報共有が図られたが、時間が確保できない学科もあった。 ○SSCの協力によって、きめ細やかな相談と対応が行き届いた。 ○ABC委員会やケース検討会で関係分掌の連携と情報共有を図り、生徒や保護者に適切に対応することができた。	B (B)	○引き続き教科担当者会を実施していく。○科会の授業時間内設定を要望する。 ○引き続きSSCの取り組みを継続していく。 ○SSCと連携し、ABC委員会等で情報を共有していく。	B (B)
		4 地域と係わり、地域の期待に応える学校づくり	① 郷土・地域を理解する ア 地域探検発見に努める イ 地域活動への参画を推進する ② 郷土・地域と連携する ア 課題解決実践・成果還元の見直しを行う イ 家庭と関係機関との情報共有とともに地域への感謝の心を醸成する ③ 郷土・地域に発信する ア 唯一の定期更新を行い、新鮮な学校情報を提供する イ 学校を取り巻くネットワークの拡大・充実を進める	課題解決型プロジェクト学習の推進ができたか ボランティア活動・地域行事への参加が積極的であったか PTAや小中学校・NPO・先輩・企業等とのコラボレーションができたか 最上地域市町村との連携ができたか 10月に開催される農工大会(クラブ員代表者会議)を学校挙げて成功させることができたか 行事前後の学校情報の提供ができたか 意見書への丁寧な対応ができたか 人的ネットワーク構築ができたか	○2年生の総合実習で基礎を築くことができた。 ○ミネコヒメクリ、ラズベリー、伝承豆、キノコ等地域の特性を生かしたプロジェクト学習を推進・展開できた。 ○課題研究で地域に目を向けたテーマに多く取り組み、地域への理解とつながりが深まった。 ○生徒指導部や学年が呼びかけたが、生徒の参加は限定的だった。 ○もみが大産量まつりは台風の中止と中止となったが、農産物まつり、農大祭等様々なイベントに積極的に参加することができた。 ○学校説明会と日程が重なっており、毎年参加していた農工日まんりに参加できなかった。 ○新庄中核工業団地立地協議会に参加し、企業との協働や地域行政機関との連携強化を図った。 ○本校卒業生を講師として、最上地域中学12校のうち8校で、中学生や中学教員を対象に、本校の生活や進路実現についてのプレゼンを実施し、本校の特徴や専門高校の長所を理解してもらったことができた。 ○生徒保健委員会は、学校祭で活動報告や血圧測定、アルコールパッチテストなどを行い、来校者に健康問題を啓蒙した。 ○地元企業OBとの座談会や最上地域企業ガイダンスを開催し、地元企業を知る機会となった。 ○課題研究やインターンシップ、産業視察、ガイダンス等を通して、農業科・工業科とともに地域との連携を深めた。 ○最上地域企業ガイダンスを計画し実施に向け準備していた。 ○「新庄・最上モト大学フォーラム」で地域と連携した探求授業の成果を発表した。 ○ミネコヒメクリや紅いんげんを取り組んだ。 ○1・2年生は、農業法人との交流会を最上総合支庁との連携で実施予定である。 ○地元企業において、教員及び生徒の中長期研修を行い、技術的向上に努めることができた。 ○学校ホームページのアップを迅速に行った。 ○農工クラブ全国大会は、来賓や参加者へのおもてなしや、クラブ員代表者会を運営することで、農業科生徒が活躍し成長した。 ○農工大会は、農業科以外の生徒・職員との全面的な協力のおかげで、計画通りに実施し、成功裡に終わることができた。 ○学年通信や学級通信、学科より時宜に合わせて発行し、生徒や学校の様子を適切に発信することができた。 ○学校保健委員会で、学校医や学校薬剤師学校から、生徒の健康管理について有益なアドバイスを頂いた。 ○中学工業団地との情報交換、最上地域企業ガイダンスといった新たな取り組みや協議の場を設けることができた。	B (B)	○課題研究で、地域課題に取り組み、地域への貢献の意識を定着・向上させる。 ○ボランティア・地域行事の紹介を、迅速に行う。 ○中学校へのプレゼンでは、中学3年生は他の高校の体験学習にも参加しているため、他の高校との違いをより早く周知してもらうため、これから進路を考える中学2年生を対象とした活動を検討する。 ○行政機関や企業・農業法人など、外部機関との連携と協力を継続する。 ○実施後必ずアンケートや評価を行い、検討する。○複数年単位の計画を実施する。○今後も地域産業の担い手育成に向けて、関係機関の協力・連携を継続する。 ○他分掌と連携し、これからは学校ホームページの充実にも努めたい。 ○農工大会の経験をも、次年度の農工クラブ活動に活かせるように指導する。 ○時宜に応じて迅速に情報発信・更新する。 ○アドバイザーに対し迅速・的確に対応する。 ○これまでの取り組み状況も踏まえ検討する。